

2 地震について考える

© JAPAN-DA



地震発生のメカニズム

日本で発生する地震は、発生メカニズムと発生場所によって、大きく「海溝型地震」と「直下型地震」の2つに分けられます。

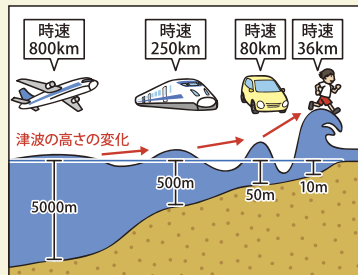
	海溝型地震	直下型地震
発生場所	海底にあるプレートの境界で発生する地震	私たちが住んでいる土地の真下(直下)で発生する地震
地震発生のメカニズム		
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・小さな横揺れから始まり、長くゆっくりとした大きな横揺れが続く ・大規模な津波が発生する事が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・下から突き上げるような大きな縦揺れが続く ・揺れている時間が短い
過去発生した地震	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災(2011年) など 	<ul style="list-style-type: none"> ・阪神・淡路大震災(1995年) ・新潟県中越地震(2004年) など

【出典】文部科学省地震調査研究推進本部「日本は世界有数の「地震国」」(<http://www.jishin.go.jp/main/pamphlet/kodomopanf/jishin02.pdf>)を参考に構成

東日本大震災の被害が大きくなった原因も津波でした

津波は、海が深いほど速く伝わる性質があり、沖合いではジェット機に匹敵する速さで伝わります。

逆に、水深が浅くなるほど速度が遅くなりますが、とはいえ、オリンピックの短距離走選手なみの速さで陸上に押し寄せるので、普通の人々が走って逃げ切れるものではありません。津波から命を守るためには、津波が海岸にやってくるのを見てから避難を始めるのでは間に合いません。海岸付近で地震の揺れを感じたり、津波警報が発表されたら、速やかに避難しましょう。



今後発生が予想される東海・東南海・南海地震も、津波を伴うことが多い「海溝型地震」であり、いつ発生してもおかしくないとされています！

【出典】気象庁ホームページ津波発生と伝播のしくみ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/tsunami/generation.html>)を参考に構成

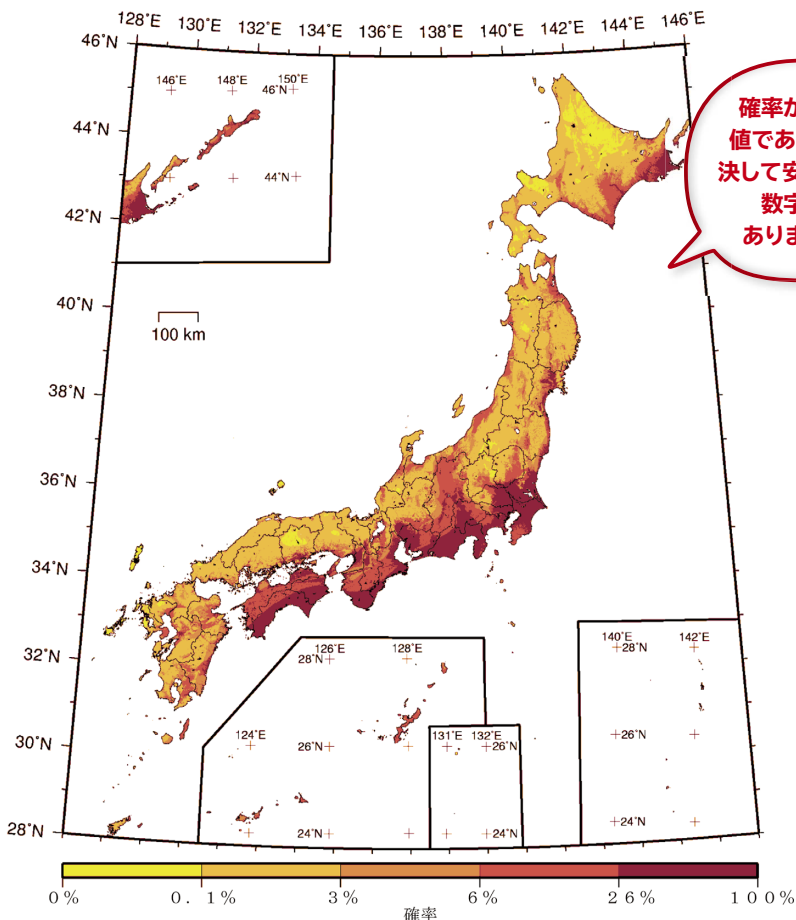
巨大地震発生危険性

「近いうちに巨大地震が来る」と、最近頻繁に耳にしますね。
ここで改めて、地震の発生確率について考えてみましょう。

■ 今後30年以内に日本で巨大地震が発生する確率は…

以下の日本地図は、確率論的地震動予測地図といって「ある一定期間内に、ある地域が強い揺れに見舞われる確率」を色分けして地図上に示しています。

2014年から30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率の分布
(平均ケース・全地震)(基準日2014年1月1日)



【出典】「地震動予測地図」HP(http://www.jishin.go.jp/main/p_hyoka04.htm#zenkoku)

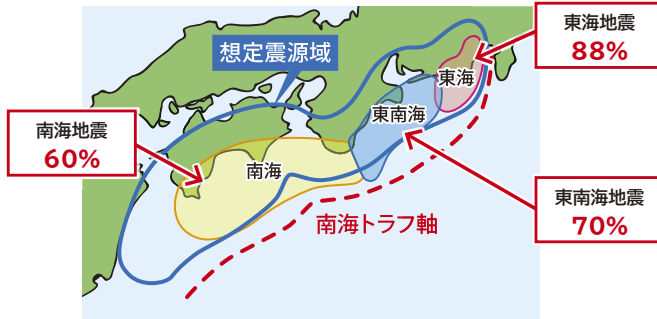


■ 巨大地震は繰り返し起きている？

この100年間に、日本では、関東大震災、阪神・淡路大震災、東日本大震災という大規模な地震が3回も発生しています。歴史的に見て、これらの大きな地震は繰り返し発生しています。例えば南海トラフでは、およそ100年程度の間隔で地震が発生しています。

南海トラフとは… 駿河湾から九州東方沖まで続く深さ約4,000メートル級の深い溝

今後30年以内に南海トラフで巨大地震が発生する確率



「30年以内に発生する確率」と言われると、随分先の話のような気がするわ・・・



※「発生する確率」であり、「被災する確率」ではありません。

【出典】内閣府HP(http://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/pdf/nankaitrough_genjou.pdf)

参考

今後30年以内に自然災害・事故などにあう一般的な確率

交通事故で
負傷
24%

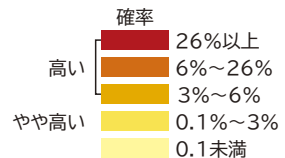
火災で被災
1.9%

大雨で被災
0.5%

台風で被災
0.48%

交通事故で
死亡
0.2%

航空機事故で
死亡
0.002%



【出典】文科科学省地震調査研究推進本部地震調査委員会「地震の将来予測への取組」「全国を概観した地震動予測地図」2008年版

自然災害・事故などにあう確率は低いですが、多くの人は日頃からこれらの事故などにあわないよう意識しています。

地震に対しても「身近な危険」ととらえて、日頃から備える姿勢が必要です。